

明治三十三年十二月

開院式

明治三十四年三月廿五日開院式

十五議會之機軸

共五冊
信號

癸卯八月二十九日讀了

晴雲抄

緊要事件



早稲田大学図書館

文書 27

B 77

5



明治三十二年三月
二十日斗五時

議席中緊要

三月十日

中一回

無所屬

九地品元

銅多輝

不
高
坊
成
後
季

系族

平山成信

研光

黒田長成

系極

長浦

同部

堀向

本曜

本田親権

本田親権

惣話

二條

系

宿

系

日 十七

中一回

然一ノ場分ニ豫算案中ノ逆後者所
 管ノ部ハ不決スル事
 其分ニノ場分ニ於テ逆後大臣更迭ヲ見
 カルトテ該省ノ法案ヲ不決セシトスル前
 ニ於テ上奏ヲ為シ院ノ意見ヲ明瞭
 ニシ置クコトヲ要ス

○十二月十七

先西局豫算ヲ十ノ千收積ヲ該省反事作ル常例案也

集會中取

局体ヲ修
 各地

○十ノ千ノ内集會人各得部

各地 野村 孝島 新山中村 孝島

板人ノ他 皆不氣 坊城ヲ修 十ノ千ノ内 各ノ千

於該省ノ前 又該省大臣 忠告ノ一書アリ

重厚の意の國の元

伊藤経理

外務

下

屋

山本中軍

文部

林

桂

末

林

林

桂

一 貴族院の通信知照職に任じ内閣の威信を保つ
 二 官吏の選任に於て官紀を振肅し励行せしむるに
 三 國務の急務を迅速に處置せしむるに努むるに
 四 皇室の尊厳を固く守りて皇位を永く保つに
 五 國民の幸福を謀りて社会の進歩を促すに
 六 外交の交渉に於て國家の利益を堅持し平和の道に
 七 財政の整理に努みて國家の財政を健全に
 八 教育の振興に努みて國民の素質を向上せしむるに
 九 衛生の増進に努みて國民の健康を保持せしむるに
 十 地方の自治を促進し國民の政治的意識を養成せしむるに

一 貴族院の通信知照職に任じ内閣の威信を保つ
 二 官吏の選任に於て官紀を振肅し励行せしむるに
 三 國務の急務を迅速に處置せしむるに
 四 皇室の尊厳を固く守りて皇位を永く保つに
 五 國民の幸福を謀りて社会の進歩を促すに
 六 外交の交渉に於て國家の利益を堅持し平和の道に
 七 財政の整理に努みて國家の財政を健全に
 八 教育の振興に努みて國民の素質を向上せしむるに
 九 衛生の増進に努みて國民の健康を保持せしむるに
 十 地方の自治を促進し國民の政治的意識を養成せしむるに

正德通志初年為倉中涉商公事之有
二十九年十月
首地噴是
廿八

誠不

擇山伯鹿兒弟之素物拔出

音未失院風波曉澄之形勢之象對
外撥矣際一重天之滿合而深為事
大局之出方眼涉祀慶通數亦處世
神年新也

廿四

二月廿七

淡大記

梁香大兄

潘小

傳令也の限多事如河成りて哉
院強硬殊候之辭職も不面申候鄰
邦之風雲も亦帝に於身も讓安國威
を以備吾邦之保方候は所機也
事と知候

三月七日

長政殿

弟香齋尊兄宛

打平正真 贈多謝

お公時々の為に安否も御精為事
候等、陸の旨も有未之旨申候
所歎の免れも、各負合居進行之上、
調齋の之由申候中、指而末傳令申
熟慮り候に、御國庫の割御金も、
此等坊税の除、他、良策多し、
之知、如く、鄰邦の風雲も、不
常口、撥力、は、
於議多、外征軍、酌、不、
法、は、軍、氣、
沮、喪、不、常、易、
於、御、者、と、の、生、
不、堪、把、
候

希くは身玉を風と石佛と体と保府と
 交着着眼波の以故に并合と慎重に祈
 友と角のりりて好いけ交の老兄見道と水
 厚渥對し豫めは内徳の海と牙讓相
 青也等石有る意有る以首
 三十四年三月七日
 減下中拜
 杉平 噴 奉 呈
 在 不 對 本 故 之 能 知 保 府 保 府 保 府

一	三億二千九百萬		二十六年
一	九億六千萬		三十二年
一	一億六千四百萬圓	各銀行	二十七年
一	三億九千四百萬圓	各銀行	三十二年
	石炭 巷一 方	汽車 汽船 除キ	
一	七十二萬噸	各工場	二十六年發
一	百八十二萬噸		三十二年發

生絲

一百七十七萬四千貫目

二十六年末

一 款百十二萬四千貫目

三十三年末

但十六貫目價 千二百四十

民間

一 參億圓

二十六年

一 九億圓

三十三年

輸米

一 千萬圓

三十年

一 五百九十萬圓

三十二年後歲出入相償新稅增加為

一 四千萬圓餘 二年目

經常歲出入、豫備、臨時費、
進、生產的

輸入米

一十萬圓

每年

一四千萬圓

三十年來米作石作歲

内地之國債募債六八千萬

一壹億三千萬圓

此債明治早身

内

一十萬圓、預金部之公債

一五千萬圓、預金部、水害補助學校基金

一千九百萬圓、製鐵所、電話等、製作費

一二十萬萬圓、三十四年發國債

鐵道

三十三年一

一二十七百萬圓

三十三年發國債

一 二億四千萬圓

民設鐵道固定資金

内拂込高、壹億二千三百萬圓、未拂込、一億九百萬圓

一 七千萬圓

官設 既成

一 壹億六千三百萬圓

民設 既成

合官民既成、或億三千三百萬圓

銀行

一 二千三百萬

銀行、數

日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月
合計													
二千八百八十六萬二千四百二十四圓													

三十四年一月

償金計算

大藏省松尾臣善象議院於三演說

金 考億六千六百二十七萬二千八百八十圓

總高

內

一 數百萬圓

帝室御料編入

一 千數百萬圓

臺灣經費

一 五千萬圓

三基金

軍艦水雷艇天付教育
水難

一 七千八百九十九萬七千六百四十四圓

臨時軍事費特別會計繰入

一 壹億九千九百八十九萬二千四百四十四圓 常用繰入協賛濟高

內

一 壹億三千八百九十七萬四千百圓

二十三年十二月迄常用撥高

一 六千八十七萬八千三百圓

繰入未濟高

一 五百四十二萬四千六百二十二圓

殘餘費途未定

右内繰入未濟高、費途未定、殘餘、合シテ即千改
府ノ現在保管レ居價金ニ其内譯ハ左通ナリ

一 六千六百三十萬圓

現在金高

内

一 參百五十萬圓

一般及特別會計

一 參千二百四十五萬五千二百圓

内地現在通貨銀塊及

勸業債券

内

一 貳千八百五十七萬九千圓

通貨

内

一 千九百四十九萬圓

公債募集繰替支拂

一 二十九萬九千九百圓

銀塊

一 參百五十九萬三千百拾圓

勸業債券

一 參千三十四萬六千七百七十五圓

倫敦保管高

内

一千五百九十三萬三千四
 一六十八萬三千四百十四
 一六十四萬三千五百九十三四
 一八十八萬六千五百三十五四
 一千二百十九萬九千五百九十六四

英貨、英蘭銀行預高
 日本銀行、利付當座預
 支那公債
 五分利 附軍事公債
 四分利 英化貨公債

限外兌換券ノ増加 三五年月二十日

時事新報

金一億九千六百萬圓

兌換券發行高

内 七千八百萬圓

貸出高

金六千五百萬圓

正貨準備

制限外ハ一千萬ヨリ一千百萬圓ニ増加セリ最早月末一般ノ金融
 再ニ多少ノ負担ヲ来スベク制限外ノ當分増加ノ一方ニシテ

三月二十八百萬圓ニテ尚三十四年及繰越サルベキ金數百
萬圓ヲ剩スモト信ス次、清國ヲ得ル償金ノ殘額ヲ調フニ

金 四百萬圓余ノ用途ノ未定ナルモノ剩餘アリト思考ス一方於三十四年豫

算ノ規定シル所ノ事業ガ繰越タル為繰越シ金有リ居ル其額ハ

金 七千四百萬圓 三十一年及現計

六千六百萬圓 三十二年及現計

數千萬圓 三十三年及現計ノ繰越シ金有リ居ルナリ

大藏省當局者ノ説明ノ據レハ夫レノ事業費途ハ始リ居ル言フモ若

シモ其事業ヲ一時繰越ハスレバ夫レトシテ金額ハ自ラ浮ビ出テ

ハルベカラズ故ニ向來一身位リ支フベキ費用ハ彼此合スルキハ之ヲ得難クモシテ而モ若シ夫レ
迄待ツレ能ハズ次期通常議會ヲ早ク開ク事或ハ臨時議會ヲ開ク事當
然清國ノ件ニ要スル費用ノ要求スルニ及テ晚レトモト思考スルモ其眞實ノ右理由以テ增
稅案ノ否決ナリ

松尾政府委員其増税說明

毎身及ノ常用ノ歳入出於三十四年及ノ始ヨリ殆ンド終リタル迄始終歳入ノ對

シ歳入ノ方が多クノテコト既昨年即三十二年及ノ豫算ニ於キテ

モ唯今御議シ中ニテテ格リマス三十四年度ノ豫算ニ於キテ之最高不足シテ三月ハ

三千五百萬圓ハカリニナリマス其八カノ對シニテハ其時ハ大藏省證券ヲ發シ其不

又補フト云フモノ織ハ出来テ居リマ昨身十月ノ處ニテ三十萬圓ノ不足ヲ本
 二月末若ク三月ニ至ル地租收入等追入リ来リ以テ先キ借入レ金額ヲ返却
 得ベシ計算九が三月ヲ終リ四月入ル茲翌年交常用歳入出計算起リ
 来リ四月ノ初メ支出スベシ現金ノ不足ヲ生ズリ是レ必ス先令ノ會計年及ノ立
 方基ツモノニテ一般會計ノ歳入出於テ決シテ現金ノ餘裕ヲ有セザレリ

償金ノ出納

金三億六千六百二十二萬餘圓

清國ノ受取ル名償金ノ總額

其費途既定額

金五千六百七十九萬餘圓

陸軍省擴張費

二十五千六百八十五萬三千八百三十四圓九角

金一億三千九百廿九萬餘圓
 金五十七萬餘圓
 金七千八百九十萬餘圓

海軍省擴張費
 製鉄所設置費中支辨スヘキ高
 廿七八年役軍事費

金參百廿一萬餘圓
 金千二百萬圓
 金二千萬圓
 金五千萬圓

廿年及於テ軍事費殘額支辨スヘキ高
 世年及世臺灣經費中繰入使費
 帝室御料移シ名高
 三基金移シ名高

考億六千八百三十萬六千二百八十三圓九角

昂ク總額ノ差引使途未定高

金五百四十六萬圓

其内

金三百五十九萬圓

金百八十六萬

勸業債券トシテ之ヲ有ス
殘現金高所有ノ分

償金支拂、現況

金三億六千六百二十三萬餘圓

総額

金二億九千九百九十三萬餘圓

既ニ支拂ヒ高

差引 昨年三月末日於ニ現在高

金六千六百三十餘萬圓

右内三十三年度、支拂殘リ及ヒ三十四年度、於テ支拂フハ平計盡
、高ハ合テ

金四千九百七十萬餘圓

其内譯ハ本邦於テ現金若シ銀塊ヲ合テ所持ス高

金二千八百八十六萬圓

倫敦於テ現金ヲ所持ス高

金千六百六十一萬圓

ニ貨

金四百二十四萬圓

公債ヲ所持高

右、金額、第廿九年三月末日迄、支拂ハキ費金
 此中重キ、外國ニ支拂フ、軍艦費用、充ツヘキモノアリ、而シテ以上、金額、
 左引、三十九年度、部、係越ス、キ高、

金千六百零八萬餘圓ニシテ

其内

金三百萬圓 三十二年友ノ般會計於テ歳入ノ不足ヲ補フ為メ

金九十萬圓 專管留地特別會計ハ、貸付

金九百四十九萬餘圓 公債証書トシテ外國ニ保存為

金三百九十九萬圓 勸業債券

酒造税法中改正法律案ヲ提出スル理由ハ
歳入ヲ増加スルハ目下財政上必要ノ事屬スル
為ナリ

其必要ニ屬スル要點如左

- 一 清国事件ノ為ニ要スル経費ノ支弁
- 二 三基金ノ補充
- 三 従来公債支弁ニ屬セシメタル計畫ヲ変更シテ
租税收入ノ支弁ニ屬セシムル等ノ必要アリ

三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日
貴族院停會	停會	停會	停會	開會	停會	開議	開議	開議
山下母在宅	山下母在宅							

三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日
開議	開議	開議	開議	開議	開議	開議	開議	開議
山下母在宅	山下母在宅							

三月三日	東京に於て西郷松方山縣と都府の會合あり	上院國作貴族院議決 至居居
三月四日	西郷松方山縣と都府の會合あり	議長尚又議決
三月五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	○山右倉右衛門伊藤等自印印
三月六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十一日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十二日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十三日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十四日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十一日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十二日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十三日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十四日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月三十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	

三月五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	○日田部高木兼寛閣議決増税
三月六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	○寺島曰停層新能
三月七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十一日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十二日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十三日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十四日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月十九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十一日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十二日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十三日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十四日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十五日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十六日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十七日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十八日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月二十九日	西郷松方山縣と都府の會合あり	
三月三十日	西郷松方山縣と都府の會合あり	

元光
同日
子編
日録
九

三月 八日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日
一回序定也山縣侯為言 田部子谷子答辨あり	井上仙演説あり 序見たり かく多細く 七議あり	この事と案するに 調和院通と計と 欲せざるあり	行勢上好方法と澤らに 苦しめたり かくと	會見後元光 山縣西郷松方井上元老と免南	再考せんと言葉を造り 委實法と別れ 三年所	西郷帥入る 案を察せ 密議時と移し 午後	首相官帥 伊藤侯と會々 打合あり	都府より 山侯と元老と首相 西郷帥と打合

加

三月 八日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日
せうと一と電話 首相一時過き 一旦官帥考す	七真西郷帥 趣き元老と會し 元老より午前	赤河委員と 會見し 頗末と告げ 是談半あり	時半頃より 山侯松方ハ 近衛議長と訪問せり	と歳より 三時迄 元老帥 兼是考り 又首相及元	老の間 密議と凝る 首相カミハ 五時半頃 西郷帥	と辭し 夕再び 首相官帥の 會議あり 他四老は	強り 多協議 案を集めて 打ち 首相帥 西園寺	樞相の 始め 末松加藤渡邊 見玉山本金子松田原

三月 八日	三月 七日	三月 六日	三月 五日	三月 四日	三月 三日	三月 二日	三月 一日
三月八日	今日午收山縣村方二老より山清議長より指系協	議及ぶりし物多し老より	一今回提出増税法案、依り徴収す金額清	國事件費及基金填補に限り使用す事	一右金額帝國議會に協賛を任じ非此項に	經費以外に使用す事と決す事	長とと身と之老より議長に渡し、若くは山清議長
							厚く儀協わいたし、若くは山清議長

三月 八日	三月 七日	三月 六日	三月 五日	三月 四日	三月 三日	三月 二日	三月 一日
三月八日	議長多人勸交渉委員より傳ふべき事あり、山清	下北選出五元調りあり、決意初令七人	今夜其間傳會に開議法案上奏す事	壽丸在貴族院出席、沼村令九より十名を以て向	傳會 <small>因、沼村、昭、元老及貴族院交渉委員會に於て、</small>	時任と迄誤三五人夫々分皆齋し、其足り三三長分の最後	坊中に出て音頭なり、其後不結尾に、山縣西御前候
							世務議及ぶり、貴院より山縣を以て、山縣完美とあり
							外他策あり、山縣自ら其を遂行す事あり

三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場	此七開議直議場
山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方	山縣村方
伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相	伊原省相
尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院	尖族院
午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後
上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏	上奏
車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費	車費
年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限	年限
退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出	退出

此七開議直議場... 山縣村方... 伊原省相... 尖族院... 午後... 上奏... 車費... 年限... 退出...

此七開議直議場... 山縣村方... 伊原省相... 尖族院... 午後... 上奏... 車費... 年限... 退出...

此七開議直議場... 山縣村方... 伊原省相... 尖族院... 午後... 上奏... 車費... 年限... 退出...

北清事件費收支計算

支額
北清事件費
支額

事項	三十四年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十八年度	合計
增稅收入	三十四年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十八年度	合計
酒稅	九九五三〇〇〇	九九五三〇〇〇	九九五三〇〇〇	九九五三〇〇〇	九九五三〇〇〇	三九八二〇〇〇
海關稅	一四一〇〇〇	九三五〇〇〇	九三五〇〇〇	九三五〇〇〇	九三五〇〇〇	三八八一〇〇〇
專賣局益金	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	一六〇一〇〇〇
事業費繰延	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇	一六〇一〇〇〇
借入金	一七〇〇〇〇〇〇					一七〇〇〇〇〇〇
合計	三三三〇〇〇〇	一四〇九二〇〇〇	一四〇九二〇〇〇	一四〇九二〇〇〇	一四〇九二〇〇〇	八〇八〇〇〇〇

北清事件費	合計
北清事件費	二二〇〇〇〇〇
合計	二二〇〇〇〇〇

習日

廿〇日 廿一日 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日

休
院式賜物

園
園

廿〇日 廿一日 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日

新九時出院
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物
院式賜物

日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月

日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月 日月

卅三

先づ第一、深く日本銀行を戒め、再び強制に如き急劇
 的舉動を為さざる事とす。格上なき金利一厘方も
 低減せしむべきあり。殊に而して永遠に救済策を以て差別す
 べし。
 現行の財政を懐く明治六年の財政に如し、井上大藏大輔
 涉澤大藏大輔、大藏省を退きたるべきあり。當分の財政
 事情を二大段に區別せし。
 一、各省經費の要求、國勢の進歩に伴ふ。此點は於て
 井上と反對せし事。

明治
 内閣
 内閣
 内閣

一、世反對、内閣の亦、亦ならず、遂に財務省を
 省、辭職せし。
 之を現行の事情に比し、
 其量額、二千萬圓と二億萬圓のお違ひの款項
 之増加倍蓰倍常ならず、雖も財政の真状を以て
 何の異多し、而して國運の進退、歳計の相伴、是
 七一
 國家の富力を、顧慮せざる、只、官、事、が、擴、張
 執中、是、二

武力を誇大し白狼を民衆に歡呼と賞せん是也
そ之

此の事相錯綜し今日之窮状と云ふ此天地人の
雜誌并其意見を抄出ると何れも其苦を以て
所成と言ひ終つて財政當局者之辭職を勸告す
男六十年の時終つて其の侃諤と進言あり今日之
時際一夫一語の聞かざれば財政當局者ある
は時運之艱危際一の重く断つては是を謀る
者省く多し年が計畫画ありと過正りと居て是

無からず是之を以て為すは人の所を以て是を
其職を考へべき也

三十四年一月

兌換券歐洲諸國特權銀行の例

準備金、對して三倍返り發行に可なり

金六千五百萬圓

正貨準備

右に對して三倍發行

一億九千五百萬圓ノ兌換券の發行可なり

當年一月

一億九千六百萬圓の發行可なり

發行の準備

七、百萬圓の超過あり

